



[平成18年度設置]

計画の区分：学部の設置

長崎国際大学 薬学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 九州文化学園
平成22年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教育改革推進室

職名・氏名 係長 ^{マツナガ}松永 ^{カズオミ}一臣

電話番号 0956-39-2020

（夜間） 090-2964-4805

F A X 0956-39-3111

e-mail kaikaku@niu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載いただき、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

目 次

1 調査対象大学等の概要等	1
2 授業科目の概要	4
3 施設・設備の整備状況、経費	26
4 既設大学等の状況	27
5 教員組織の状況	28
6 留意事項に対する履行状況等	46
7 その他全般的事項	48
別紙 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見	別紙1

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 九州文化学園

(2) 大学名

長崎国際大学

(3) 大学の位置

〒859-3298
長崎県佐世保市ハウステンボス町2825番7

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(アベ ナオキ) 安部 直樹 (平成10年4月)		
学長	(ワダ コウジ) 和田 光史 (平成12年4月)	(シオタニ ヨシコ) 潮谷 義子 (平成21年4月)	前職者の退職による(21)
学部長	(ヒメノ マサル) 姫野 勝 (平成18年4月)		
学科長等	(サカキバラ リュウゾウ) 榊原 隆三 (平成18年4月)	(ヤマモト ツネユキ) 山本 経之 (平成22年4月)	任期満了による交代 (22)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)
平成22年度に報告する内容 → (22)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成19年度開設の4年制の学科の場合(平成22年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
薬学部 薬学科 学士(薬学)	6年	120人	0人	720人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均入学定員超過率	備考
A	入学定員	(-)人 120	(-)人 120	(-)人 120	(-)人 120	(-)人 120	()人	0.82倍	
	志願者数	(-)人 486	(-)人 450	(-)人 364	(-)人 275	(-)人 267	()人		
	受験者数	(-)人 466	(-)人 422	(-)人 358	(-)人 273	(-)人 266	()人		
	合格者数	(-)人 282	(-)人 355	(-)人 303	(-)人 239	(-)人 235	()人		
B	入学者数	(-)人 125	(-)人 101	(-)人 102	(-)人 84	(-)人 86	()人		
	入学定員超過率 B/A	(-)人 1.04	(-)人 0.84	(-)人 0.85	(-)人 0.70	(-)人 0.71	()人		

- (注) ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には, 平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成19~21年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備考
1年次		[0] 125	[0] 103	[0] 103	[0] 85	[0] 90	[]	
2年次		/	[0] 123	[0] 103	[0] 107	[0] 80	[]	
3年次		/	/	[0] 119	[0] 96	[0] 100	[]	
4年次		/	/	/	[0] 114	[0] 99	[]	
5年次		/	/	/	/	[0] 109	[]	
6年次		/	/	/	/	/	[]	
計		[0] 125	[0] 226	[0] 325	[0] 402	[0] 478	[]	

- (注) ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成18年度	計 [-] 0人	計 [-] 125人	[- %] 0%
	うち平成18年度入学者 0人	うち平成18年度 125人	
	(主な退学理由) 該当なし		
平成19年度	計 [-] 3人	計 [-] 228人	[- %] 1.3%
	うち平成18年度入学者 2人	うち平成18年度 125人	
	うち平成19年度入学者 1人	うち平成19年度 103人	
(主な退学理由) 進路変更(専門学校)1人、体調不良1人、除籍(長期無断欠席)1人			
平成20年度	計 [-] 3人	計 [-] 331人	[- %] 0.9%
	うち平成18年度入学者 2人	うち平成18年度 125人	
	うち平成19年度入学者 1人	うち平成19年度 103人	
	うち平成20年度入学者 -人	うち平成20年度 103人	
(主な退学理由) 平成19年度から追加の該当なし			
平成21年度	計 [-] 11人	計 [-] 415人	[- %] 2.7%
	うち平成18年度入学者 3人	平成18年度 125人	
	うち平成19年度入学者 4人	平成19年度 103人	
	うち平成20年度入学者 4人	平成20年度 103人	
	うち平成21年度入学者 -人	平成21年度 84人	
(主な退学理由) 他大学への進学5人、学力不足1人、就職1人、除籍(経済的)1人			
平成22年度	計 [-] 21人	計 [-] 501人	[- %] 4.2%
	うち平成18年度入学者 3人	平成18年度 125人	
	うち平成19年度入学者 8人	平成19年度 103人	
	うち平成20年度入学者 7人	平成20年度 103人	
	うち平成21年度入学者 3人	平成21年度 84人	
	うち平成22年度入学者 -人	平成22年度 86人	
(主な退学理由) 他大学への進学8人、体調不良1人、経済的理由1人			

(注)・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

2 授業科目の概要

<薬学部 薬学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目(一般科目)	導入											教員の追加(21) 担当 頼原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 准教授から教授への昇格(21) 担当 丸茂義輝(教授) 平成17年9月 教授として本科目の教員審査済 判定 可 就任辞退による⑳ 担当 渡邊武(教授) 教員の追加㉑ 担当 岸原健二(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 他学科から専任教員として異動㉑ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加㉑ 担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 就任辞退による㉑ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加㉑ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定㉑ 平成19年9月 教員審査済㉑ 判定 可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成19年9月 教員審査済 判定 可
	教養セミナーA	1	1			20	9	5				教員の追加(21) 担当 頼原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 准教授から教授への昇格(21) 担当 丸茂義輝(教授) 平成17年9月 教授として本科目の教員審査済 判定 可 就任辞退による⑳ 担当 渡邊武(教授) 教員の追加㉑ 担当 岸原健二(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 他学科から専任教員として異動㉑ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加㉑ 担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 就任辞退による㉑ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加㉑ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定㉑ 平成19年9月 教員審査済㉑ 判定 可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成19年9月 教員審査済 判定 可
	教養セミナーB	1	1			20	9	5				教員の追加(21) 担当 頼原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 准教授から教授への昇格(21) 担当 丸茂義輝(教授) 平成17年9月 教授として本科目の教員審査済 判定 可 就任辞退による⑳ 担当 渡邊武(教授) 教員の追加㉑ 担当 岸原健二(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 他学科から専任教員として異動㉑ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加㉑ 担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 就任辞退による㉑ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加㉑ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定㉑ 平成19年9月 教員審査済㉑ 判定 可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成19年9月 教員審査済 判定 可

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	教養セミナー	1	2			17	7	5			教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割し区分変更 ^⑯
人間理解	哲学	1 未開講		2							今年度開講 (22) 隔年開講科目であり今年度開講せず (21) 担当者の追加 (21) 担当 木村勝彦 (兼任) 担当者の定年退職 (21) 担当 関家新助 (兼任)
	倫理学	2 未開講		2							今年度開講 ^⑳ 隔年開講科目であり今年度開講せず ^⑲
	生命倫理	1 2	2								担当者の追加 ^⑲ 担当 濱崎直孝 (兼任) 教育効果を考慮し配当年次を変更 ^⑲
	宗教学	未開講 2		2							隔年開講科目であり今年度開講せず (22)
	心理学	1		2							担当者の追加 (22) 担当 古賀義 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 黒山竜太 (兼任) 担当者の追加 ^⑳ 担当 城下未来 (兼任)
	教育学	1		2							担当者の退職 (21) 担当 山岸利次 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 乙須翼 (兼任)
	歴史学	1		2							
	文化人類学	1		2							
	世界文化遺産論	2		2							国際理解区分へ移行 ^⑲
	芸術論	1		2							
	文学論	1		2							教育課程の充実を図るため科目を追加 ^⑲ 担当 中野はるみ (兼任)
	茶道文化ⅠA	1		1							担当者の追加 (22) 担当 仲野優 (兼任)
	茶道文化ⅠB	1		1							担当者の追加 (22) 担当 仲野優 (兼任)
	茶道文化Ⅰ	4		2							教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑲
	茶道文化ⅡA	2		1							担当者の追加 (22) 担当 仲野優 (兼任)
	茶道文化ⅡB	2		1							担当者の追加 (22) 担当 仲野優 (兼任)
	茶道文化Ⅱ	2		2							教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑲
茶道文化ⅢA	3		1							教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑲	
茶道文化ⅢB	3		1								
茶道文化Ⅲ	3		2								
茶道文化ⅣA	4		1							教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑲	
茶道文化ⅣB	4		1								
茶道文化Ⅳ	4		2								
食文化論	未開講 1		2								全学的な見直しにより削除 ^⑲ 隔年開講科目であり今年度は開講せず ^⑱
ホスピタリティ概論	1		2								担当者の退職 (21) 担当 相澤哲 (兼任) 担当者の担当科目辞退 (21) 担当 木村勝彦 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 潮谷義子 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 安徳勝憲 (兼任) 担当者の追加 ^⑲ 担当 安部直樹 (兼任) 担当者の追加 ^⑲ 担当 木村勝彦 (兼任) 担当者の追加 ^⑲ 担当 相澤哲 (兼任)
											担当者の退職 (21) 担当 下島康史 (兼任)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	余暇論	2		2								担当の変更(21) 担当 小島大輔(兼担) 教育効果を考慮し、配当年次を変更 ^⑱ 教育効果を考慮し、配当年次を変更 ^⑱
	健康科学	3 1+2		2								自然理解区分へ移行 ^⑱ 教育効果を考慮し配当年次を変更 ^⑱
	スポーツ実習 I	1		1								担当の追加(21) 担当 宮良俊行(兼担) 担当の退職(21) 担当 伊藤リナ(兼担) 担当の追加 ^⑲ 担当 箕輪憲吾(兼担) 担当の追加 ^⑲ 担当 伊藤リナ(兼担)
	スポーツ実習 II	1		1								担当の追加(21) 担当 宮良俊行(兼担) 担当の退職(21) 担当 伊藤リナ(兼担) 担当の追加 ^⑲ 担当 箕輪憲吾(兼担) 担当の追加 ^⑲ 担当 伊藤リナ(兼担)
	基礎の化学	1		2								
	基礎の生物学	1		2								
	基礎の物理学	1		2								
国際理解	英語演習 I A	1		1								担当の追加(22) 担当 岡侑子(兼任) 担当の追加(22) 担当 安部雅隆(兼任) 担当の辞任(22) 担当 西俣貴幸(兼任) 担当の追加(21) 担当 西俣貴幸(兼任) 担当の追加(21) 担当 Brendan Van Deusen(兼任) 担当の定年退職 ^⑳ 担当 石上晋保(兼担) 担当の追加 ^㉑ 担当 林田京子(兼任) 担当の追加 ^⑲ 担当 平井美津子(兼担)
	英語演習 I B	1		1								担当の追加(21) 担当 Brendan Van Deusen(兼任) 担当の定年退職 ^⑳ 担当 石上晋保(兼担) 担当の追加 ^㉑ 担当 林田京子(兼任) 担当の追加 ^⑲ 担当 平井美津子(兼担)
	英語演習 I-	1		2								教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑲
	英語演習 II A	1		1								担当の追加(22) 担当 岡侑子(兼任) 担当の追加(22) 担当 安部雅隆(兼任) 担当の追加(21) 担当 Brendan Van Deusen(兼任) 担当の定年退職 ^⑳ 担当 石上晋保(兼担) 担当の追加 ^㉑ 担当 林田京子(兼任) 担当の追加 ^⑲ 担当 平井美津子(兼担)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	英語演習ⅡB	1		1								担当 平井美津子(兼任) 教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑱
	英語演習Ⅱ	1		2								担当者の追加(22) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(22) 担当 岡侑子(兼任) 教育効果を配慮し配当年次を変更(22) 担当者の非常勤講師辞退による(21) 担当 牟田美信(兼任) 担当者の非常勤講師辞退による(21) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(21) 担当 林田京子(兼任) 担当者の定年退職による ^⑳ 担当 石上晋保(兼任) 担当者の追加 ^㉑ 担当 牟田美信(兼任) 担当者の追加 ^㉑ 担当 田原陽一(兼任)
	英語演習ⅢA	2 2-3		1								担当者の追加(22) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(22) 担当 岡侑子(兼任) 教育効果を配慮し配当年次を変更(22) 担当者の非常勤講師辞退による(21) 担当 牟田美信(兼任) 担当者の非常勤講師辞退による(21) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(21) 担当 林田京子(兼任) 担当者の定年退職による ^⑳ 担当 石上晋保(兼任) 担当者の追加 ^㉑ 担当 牟田美信(兼任) 担当者の追加 ^㉑ 担当 田原陽一(兼任)
	英語演習ⅢB	2 2-3		1								担当者の追加(22) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(22) 担当 岡侑子(兼任) 教育効果を配慮し配当年次を変更(22) 担当者の非常勤講師辞退による(21) 担当 牟田美信(兼任) 担当者の非常勤講師辞退による(21) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(21) 担当 林田京子(兼任) 担当者の定年退職による ^⑳ 担当 石上晋保(兼任) 担当者の追加 ^㉑ 担当 牟田美信(兼任) 担当者の追加 ^㉑ 担当 田原陽一(兼任)
	英語演習Ⅲ	2		2								教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割し、配当年次を変更 ^⑱
	英語演習ⅣA	3		1								担当者の追加(22) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(21) 担当 Brendan Van Deusen(兼任) 担当者の定年退職 ^㉑ 担当 石上晋保(兼任)
	英語演習ⅣB	3		1								担当者の追加(22) 担当 田原陽一(兼任) 担当者の追加(21) 担当 Brendan Van Deusen(兼任) 担当者の定年退職 ^㉑ 担当 石上晋保(兼任)
	英語演習Ⅳ	2-3		2								配当年次を変更(21) 教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑱
	検定英語Ⅰ	1~4		4								全学的な見直しにより削除 ^⑱
	検定英語Ⅱ	1~4		4								全学的な見直しにより削除 ^⑱
	中国語ⅠA	1		1								担当者の追加 ^⑱ 担当 韓榮芝(兼任)
	中国語ⅠB	1		1								担当者の追加 ^⑱ 担当 韓榮芝(兼任)
	中国語Ⅰ	1		2								教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 ^⑱
	中国語ⅡA	2		1								担当者の追加(22) 担当 章潔(兼任) 担当者の追加 ^⑱ 担当 韓榮芝(兼任) 担当者の追加(22) 担当 章潔(兼任)
	中国語ⅡB	2		1								担当者の追加 ^⑱ 担当 韓榮芝(兼任) 教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中国語Ⅱ	2		2								(19)
	コリア語ⅠA	1		1								教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割
	コリア語ⅠB	1		1								(19)
	コリア語Ⅰ	1		2								
	コリア語ⅡA	2		1								教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割
	コリア語ⅡB	2		1								(19)
	コリア語Ⅱ	2		2								
	フランス語ⅠA	1		1								就任辞退による(19) 担当 八尋百子 担当者の変更(19) 担当 Kelly L. MacDonald (兼任)
	フランス語ⅠB	1		1								就任辞退による(19) 担当 八尋百子 担当者の変更(19) 担当 Kelly L. MacDonald (兼任)
	フランス語Ⅰ	1		2								教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 (19)
	フランス語ⅡA	2		1								就任辞退による(19) 担当 八尋百子 担当者の変更(19) 担当 Kelly L. MacDonald (兼任)
	フランス語ⅡB	2		1								就任辞退による(19) 担当 八尋百子 担当者の変更(19) 担当 Kelly L. MacDonald (兼任)
	フランス語Ⅱ	2		2								教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割 (19)
	国際関係論	2		2								担当者の非常勤講師辞退による (21) 担当 白石昌也 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 滝知則 (兼任)
	国際交流研究	2		2								国際観光学科専門科目へ移行による削除 (履修可) (19)
	異文化コミュニケーション論	2 3 2		2								教育効果を考慮し、配当年次を変更(19) 教育効果を考慮し、配当年次を変更(18)
	比較文化論	1		2								担当者の追加(21) 担当 滝知則 (兼任) 担当者の辞退(21) 担当 孫勝強 (兼任)
	オランダ研究	3		2								担当者の定年退職(20) 担当 石上晋保 (兼任) 担当者の追加(19) 担当 孫勝強 (兼任)
	世界文化遺産論	2		2								全学的な見直しにより削除(19)
	国際観光論	1		2								人間理解区分から移行(19)
	国際福祉論	1		2								} 他学科専門科目へ移行のため削除(19) (履修可)
	国際栄養論	1		2								
	国際薬事論	1		2								
	日本語Ⅰ	1		2								専門科目へ移行(19) 担当者の追加 (21) 担当 章潔 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 秋山理枝 (兼任)
	日本語Ⅱ	1 2		2								担当者の追加 (21) 担当 章潔 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 秋山理枝 (兼任)
	日本事情Ⅰ	1		2								教育効果を考慮し、配当年次を変更(18)
	日本事情Ⅱ	1		2								担当者の追加(19) 担当 海老澤昭朗 (兼任)
	社会理解	2		2								担当者の追加(19) 担当 海老澤昭朗 (兼任)
	社会学	1		4								担当者の退職 (21) 担当 相澤哲 (兼任) 担当者の追加 (21) 担当 益田仁 (兼任) 教育効果を考慮し単位数を変更(19)
	社会調査法	不開講 未開講 2		2								不開講 (22) 隔年開講科目であり今年度は開講せず (21)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	生涯学習論	2		2								担当者の追加(22) 担当 立平進(兼任)
	視聴覚教育メディア論	2 3		2								担当者の追加⑳ 担当 浅田智子(兼任) 担当者の追加⑳ 担当 立平進(兼任) 担当者の追加⑳ 担当 尾場均(兼任) 教育効果を考慮し配当年次を変更⑲
	法学	1		2								担当者の追加(22) 担当 岩下栄一(兼任) 担当者の非常勤講師辞任(22) 担当 實原隆志(兼任) 担当者の追加(21) 担当 實原隆志(兼任) 担当 實原隆志(兼任) 担当 實原隆志(兼任)
	政治学	1		2								
	基礎の数学	1		2								自然理解区分へ移行⑲
	統計学	1	2	2								担当者の追加(22) 担当 早川正信(兼任) 担当者の非常勤講師辞任(22) 担当 竹垣草世香(兼任) 担当者の追加⑲ 担当 竹垣草世香(兼任) 教育効果を考慮し、必修科目へ変更⑩
	経済学	1		2								担当者の変更⑲ 担当 城前奈美(兼任)
	流通論	2		2								全学的な見直しにより削除⑲
	経営学	2		2								担当者の追加(22) 担当 安部雅隆(兼任) 担当者の非常勤講師辞任(22) 担当 新川本(兼任) 担当者の変更⑲ 担当 新川本(兼任)
	事務管理論	3		2								} 国際観光学科専門科目へ移行による削除(履修可)⑲
	労務管理論	2		2								
	地理学	1		2								
	地球環境論	4		2								自然理解区分へ移行⑲
	各国経済事情	3		2								全学的な見直しにより削除⑲
	観光入門	1		2								担当者の変更⑳ 担当 李昌訓(兼任)
	社会福祉入門	1		2								担当者の担当科目辞任(21) 担当 西村貴直(兼任) 担当者の追加(21) 担当 高橋信幸(兼任)
	健康栄養入門	1		2								} 自然理解区分へ移行⑲
	薬学入門	1	2									
	日本国憲法	2		2								担当者の追加(22) 担当 岩下栄一(兼任) 担当者の非常勤講師辞任(22) 担当 實原隆志(兼任) 担当者の追加(21) 担当 實原隆志(兼任) 担当 實原隆志(兼任) 担当 實原隆志(兼任) 教育課程の充実を図るため科目を追加⑲
	異文化適応演習 I	1		1								担当者の追加(22) 担当 木村勝彦(兼任) 担当者の追加(22) 担当 章潔(兼任) 担当者の辞任(22) 担当 西俣貴幸(兼任) 留学生教育の充実を図るため科目を追加(21) 担当者 西俣貴幸(兼任)
												担当者の追加(22) 担当 木村勝彦(兼任)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
自然理解	異文化適応演習Ⅱ	1		1								担当者の追加(22) 担当 章潔(兼任) 担当者の辞任(22) 担当 西俣貴幸(兼任) 留学生教育の充実を図るため科目を追加(21) 担当者 西俣貴幸(兼任)
	科学史	1		2								担当者の追加⑱ 担当 荒川正幸(兼任) 担当者の追加⑱ 担当 丸茂義輝(兼任) 教育課程の充実を図るため科目を追加⑱
	健康科学	2		2								人間理解区分から移行し、教育効果を考慮し、配当年次を変更⑱
	基礎の化学	1		2		1			3 4			教員の追加(22) 担当 萩森政頼(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(22) 担当 宇都拓洋(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 担当者の担当科目辞任(21) 担当 長岡寛明(兼任) 担当者の追加(21) 担当 小玉智章(兼任) 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 山本緑(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加⑱ 担当 佐藤博(兼任) 担当者の追加⑱ 担当 田中啓太郎(兼任) 人間理解区分から移行⑱
	基礎の生物学	1		2		2	1		5 2			教員の追加(22) 担当 藤本(旧姓 藤田)京子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(22) 担当 小野原侑子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加⑳ 担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 小山田浩子(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 野嶽勇一(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 人間理解区分から移行⑱
												教員の追加(22) 担当 中原広道(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 神谷誠太郎(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目群(専門科目)	基礎の物理学	1		2		1				2+		人間理解区分から移行⑱
	基礎の数学	1		2		1						社会理解区分から移行⑱
	健康栄養入門	1		2								担当の変更⑱ 担当 山本孝史(兼担) 社会理解区分から移行⑱
	薬学入門	1	2			1						社会理解区分から移行⑱
	地球環境論	1		2		1	1			1		担当の定年退職(21) 担当 和田光史(兼担) 担当の退職(21) 担当 佐藤大祐(兼担) 担当の追加(21) 担当 小島大輔(兼担) 担当の追加(21) 担当 佐藤博(兼担) 担当の追加(21) 担当 出口雄也(兼担) 担当の追加⑱ 担当 佐藤大祐(兼担) 社会理解区分から移行⑱
	コンピュータ基礎演習ⅠA		1			1						教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割⑱
	コンピュータ基礎演習ⅠB		1			1						
	コンピュータ基礎演習Ⅰ	1	2			1						
	コンピュータ基礎演習ⅡA			1		1						教育効果を考慮し、学期完結型に科目分割⑱
	コンピュータ基礎演習ⅡB			1		1						
	コンピュータ基礎演習Ⅱ	2		2		1						
	分析化学Ⅰ	1	2			1	1					助手の助教昇任のための担当追加(22) 担当 中村沙織(助教) 平成22年7月 提出予定 担当の追加⑳ 担当 高井伸彦(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	分析化学Ⅱ	2	1	2		1	1					助手の助教昇任のための担当追加(22) 担当 中村沙織(助教) 平成22年7月 提出予定 教育効果を配慮し配当年次を変更(22) 担当の追加⑳ 担当 高井伸彦(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	機器分析学	3	2			1	1					助手の助教昇任のための担当追加(22) 担当 中村沙織(助教) 平成22年7月 提出予定 担当の追加⑳ 担当 高井伸彦(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
分析化学実習	2	1			1	1			3		担当の追加⑳ 担当 高井伸彦(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可	
日本薬局方概論	4		2		1	1					助手の助教昇任のための担当追加(22) 担当 中村沙織(助教) 平成22年7月 提出予定 担当の追加⑳ 担当 高井伸彦(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可	
薬品物理化学Ⅰ	2	2			1							
薬品物理化学Ⅱ	2		2		1							
物理化学実習	2	1			1				1	2	教員の追加(22) 担当 中原広道(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可	
生物物理化学	3		2		2				1		教員の追加(22) 担当 中原広道(助教)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
化学系薬学	界面化学	6 4		2		1				1		平成22年1月 教員審査済 判定可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑱	
	放射線化学	2	2			1	1						
	放射線化学実習	3	1			1	1				1		
	放射線生物学	4		2		1	1						
													教員の追加(22) 担当 中原広道(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(22) 担当 宇都拓洋(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(22) 担当 小野原侑子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(22) 担当 萩森政頼(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(22) 担当 藤本(旧姓 藤田)京子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 担当 藤木司(助教) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 担当 出口雄也(助教) 平成21年1月 教員審査済 判定可 他学科から専任教員として異動⑳ 担当 佐藤博(准教授) 平成17年9月 教員審査済 判定可 担当者の追加㉑ 担当 高井伸彦(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可 教員の追加㉒ 担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可 就任辞退による⑲ 担当 原口せりまゆみ(講師) 教員の追加⑲ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定⑲ 平成19年9月 教員審査済㉑ 判定可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成19年9月 教員審査済 判定可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 小山田浩子(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 神谷誠太郎(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 野嶽勇一(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 山本緑(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定可
	基本科学実習	1	1			5	6 3 2	3 2 3	12 6 4		1		
	薬化学総論	1	2			1					1		教員の追加(22) 担当 萩森政頼(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可
	有機薬化学Ⅰ	1	2			1							
	有機薬化学Ⅱ	2		2		1		1					
													担当者の追加㉑ 担当 原田平輝志(教授)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	有機薬化学演習	1		1		2		1			平成19年9月 教員審査済 判定可
	有機薬化学実習	1	1			2		1	1	1	教員の追加(22) 担当 萩森政頼(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 担当者の追加⑳ 担当 原田平輝志(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可
	生物有機化学	2		2		2		1			担当者の追加⑳ 担当 原田平輝志(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可
	生薬学	2	2			1		1			
	生薬学実習	2	1			1		1	1		教員の追加(22) 担当 宇都拓洋(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可
	天然物化学	2		2		1		1	1		教員の追加(22) 担当 宇都拓洋(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可
	薬品製造学Ⅰ	3	2			2 1		1			担当者の追加⑳ 担当 原田平輝志(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可
	薬品製造学Ⅱ	4 3		2		2 1		1			担当者の追加⑳ 担当 原田平輝志(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	薬用植物学	1		2		1		1	1		教員の追加(22) 担当 宇都拓洋(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可
	香粧品学	3 4		2				1			担当者の追加⑳ 他学科から専任教員として異動⑳ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
生物系薬学	機能形態学Ⅰ	1	2			1	1	1	1		教員の追加(22) 担当 小野原侑子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 就任辞退による⑲ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加⑲ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定⑲ 平成19年9月 教員審査済⑳ 判定可
	機能形態学Ⅱ	2		2		1	1	1			就任辞退による⑲ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加⑲ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定⑲ 平成19年9月 教員審査済⑳ 判定可
											教員の追加(22) 担当 小野原侑子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 就任辞退による⑲ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加⑲ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定⑲

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	機能形態学実習	1	1			1	1	1	1		平成19年9月 教員審査済 ^㉔ 判定 可
	生化学Ⅰ	1				1	3		2		助手から昇格による担当者の追加 ^㉔ 担当 野嶽勇一（助教） 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	生化学Ⅱ	2	2			1	2				助手から昇格による担当者の追加 ^㉔ 担当 山本緑（助教） 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	生化学Ⅲ	3		2		1	2				教育効果を考慮し配当年次を見直し ^㉔
	生化学実習	2	1			1	2			4 3 2	教員の追加(22) 担当 藤本（旧姓 藤田）京子（助教） 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 藤木司（助教） 平成21年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加 ^㉔ 担当 野嶽勇一（助教） 平成20年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加 ^㉔ 担当 山本緑（助教） 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	細胞生物学Ⅰ	2	2			1	3 1				教員の追加 ^㉔ 担当 田中宏光（准教授） 平成19年9月 教員審査済 判定 可 担当者の追加 ^㉔ 担当 藤原俊幸（准教授） 平成19年9月 教員審査済 判定 可
	細胞生物学Ⅱ	2		2		1	3 1				教員の追加 ^㉔ 担当 田中宏光（准教授） 平成19年9月 教員審査済 判定 可 担当者の追加 ^㉔ 担当 藤原俊幸（准教授） 平成19年9月 教員審査済 判定 可
	分子生物学	4 3		2		3	3 2			2 1	教員の追加(22) 担当 藤本（旧姓 藤田）京子（助教） 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 藤木司（助教） 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加 ^㉔ 担当 田中宏光（准教授） 平成19年9月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し ^㉔
	免疫学Ⅰ	2	2			2	2		1		教員の追加(21) 担当 藤木司（助教） 平成21年1月 教員審査済 判定 可 就任辞退による ^㉔ 担当 渡邊武（教授） 教員の追加 ^㉔ 担当 岸原健二（教授） 平成19年9月 教員審査済 判定 可 就任辞退による ^㉔

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	免疫学Ⅱ	3		2		2	2					担当 渡邊武 (教授) 教員の追加⑳ 担当 岸原健二 (教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可
	ウイルス学	6 3		2		1	1					教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21) 就任辞退による㉑ 担当 渡邊武 (教授) 教員の追加⑳ 担当 岸原健二 (教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可
	免疫学実習	3	1			2	3 2	1	1			教員の追加(21) 担当 藤木司 (助教) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 就任辞退による㉑ 担当 渡邊武 (教授) 教員の追加⑳ 担当 岸原健二 (教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 就任辞退による⑲ 担当 原口せけまゆみ (講師) 教員の追加⑲ 担当 藤原俊幸 (准教授) 平成19年8月 変更書提出予定⑲ 平成19年9月 教員審査済⑳ 判定 可
	微生物学	2	2			1	1			1		助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 小山田浩子 (助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	病原微生物学	2		2		1	1			1		助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 小山田浩子 (助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	微生物学実習	3	1			2	2 1			2 1		教員の追加(22) 担当 藤本 (旧姓 藤田) 京子 (助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加⑳ 担当 田中宏光 (准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 小山田浩子 (助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	遺伝子工学	3		2		1	2 1			1		教員の追加(22) 担当 藤本 (旧姓 藤田) 京子 (助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加⑳ 担当 田中宏光 (准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可
健康と環境												教員の追加(21) 担当 長岡寛明 (教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 出口雄也 (助教) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 山本緑 (助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加⑲

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	衛生化学Ⅰ	3	2			1				1		担当 長岡寛明(兼任) 教員の追加(21)
	衛生化学Ⅱ	3		2		2 1					1	担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 出口雄也(助教) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加⑱ 担当 長岡寛明(兼任)
	公衆衛生学Ⅰ	2 3	2							1		他学科から専任教員として異動⑳ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑲
	公衆衛生学Ⅱ	4		2						1		他学科から専任教員として異動⑳ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	衛生薬学実習	3 4	1			2	1				2 1	准教授から教授への昇格(21) 担当 丸茂義輝(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 出口雄也(助教) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 他学科から専任教員として異動⑳ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 山本緑(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	裁判化学	3 6		2		1						准教授から教授への昇格(21) 担当 丸茂義輝(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可
	農薬学	3		2		1						准教授から教授への昇格(21) 担当 丸茂義輝(教授) 平成17年9月 教授とし本科目の教員審査済 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	栄養学総論	2 3		2		1						教員の追加(21) 担当 榊原隆三(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑲
	臨床栄養学	6 4	2			2						教員の追加(21) 担当 仮屋園博子(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 榊原隆三(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21)
												教員の追加(21)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	食品機能学	6 4		2		1				1		担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑳
	食と薬	4 5		2		1						教員の追加(21) 担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑳
	環境科学	3 5 4		2		1	1			1		教員の追加(21) 担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 出口雄也(助教) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 他学科から専任教員として異動㉑ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑳ 教育効果を考慮し、配当年次を見直し㉑
	健康薬学	6 4 6		2		1						教員の追加(21) 担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑳ 定年退職による㉑ 担当 竹本泰一郎(兼任) 非常勤講師として採用㉑ 担当 竹本泰一郎(兼任) 教育効果を考慮し、配当年次を見直し㉑
	毒性学	4		2		1	1					准教授から教授への昇格(21) 担当 丸茂義輝(教授) 平成17年9月 教授とし本科目の教員審査済 判定 可
	国際薬事論 和漢薬概論	1 3		2 2		3 1				1		担当者の追加㉑ 担当 荒川正幸(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 担当 正山征洋(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 一般科目から移行㉑
	薬制論	3 4		2						1		教員の追加(22) 担当 小笠原正良(准教授) 平成21年7月 教員審査済 判定 可 教員の追加(22) 担当 永井勝幸(兼任) 担当者の非常勤講師辞退(22) 担当 久保田晴久(兼任) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し㉑
薬学と社会												他学科から専任教員として異動㉑ 担当 佐藤博(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 就任辞退による㉑ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加㉑

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	薬学英語	3 4	1			2	4 3 2	1 2			担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定⑱ 平成19年9月 教員審査済⑳ 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	実用薬学英会話	6 4 6		1							教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	臨床心理学	4	2								
	ヘルスカウンセリング	6 5		2							定年退職による㉑ 担当 中根允文(兼任) 非常勤講師として採用㉑ 担当 中根允文(兼任) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	介護概論	6 4 6		2							教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	看護学概論	6 4 5		2							教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	薬局経営学	3 5		2		1					健康上の理由により退職㉑ 担当 永田修一(教授) 非常勤講師の採用予定㉑ 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
医薬品をつくる	薬事関係法規Ⅰ	4 5	2				1				教員の追加(22) 担当 小笠原正良(准教授) 平成21年7月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	薬事関係法規Ⅱ	6		2			1				教員の追加(22) 担当 小笠原正良(准教授) 平成21年7月 教員審査済 判定 可
	放射性薬品学	3		2		1	1				
	微生物薬品学	3		2		1	1				
	製剤学	4		2		1					
	ゲノム創薬学	6 4	2			1	1				教員の追加㉑ 担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	創薬化学	6 5	2			2 1		1			担当者の追加㉑ 担当 原田平輝志(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
治験コーディネート論	6		2		2						
薬と疾病	宇宙と薬学	6 4 5		2		1					教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	薬理学Ⅰ(総論)	2 3	2			2 1	1		1		教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加㉑ 担当 立石正登(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑲

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	薬理学Ⅱ（各論・中枢）	3	2			2 +	1			1		教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加⑳ 担当 立石正登(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	薬理学Ⅲ（各論・抹消）	3 4	2			2 +	1			1		教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加⑳ 担当 立石正登(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	薬理学実習	3	1			1	1			1	1	教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可
	臨床薬理学	6 4			2	2 +	1				1	教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21) 担当者の追加⑳ 担当 立石正登(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
	応用薬理学	4 6 5			2	1	1				1	教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	薬剤学 薬剤学Ⅰ	3	2			3 2 +			1		1	薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による科目名称の変更(21) 担当者の追加(21) 担当 大磯茂(講師) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 仮屋園博子(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加⑳ 担当 立石正登(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 神谷誠太郎(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可
												薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による科目の移動と生物薬剤への名称変更(21) 担当者の追加(21) 担当 大磯茂(講師) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 仮屋園博子(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
治療学系	薬剤学Ⅱ	4 3		2		2 1		1			薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑱
	薬剤学実習	4	1			2		1	1	助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 神谷誠太郎(助教) 平成20年1月 教員審査済 判定 可	
	薬物動態学	4	2			2		1	1	教員の追加(22) 担当 萩森政頼(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 仮屋蘭博子(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 教員の追加(21) 担当 大磯茂(講師) 平成21年1月 教員審査済 判定 可	
	臨床医学概論	2 3		2		3 2		1		教員の追加(21) 担当 頼原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 就任辞退による㉑ 担当 渡邊武(教授) 教員の追加㉑ 担当 岸原健二(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑱	
	病理学	2 3		2		3	1	1		就任辞退による㉑ 担当 渡邊武(教授) 教員の追加㉑ 担当 岸原健二(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 教員の追加㉑ 担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 教育効果を考慮し、配当年次を見直し⑱	
	臨床生理学	3 4	2			2 1		1		教員の追加(21) 担当 頼原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 助手から昇格による担当者の追加㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成20年1月 教員審査済 判定 可 担当者の追加㉑ 担当 頼原嗣尚(兼任) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑱	
										教員の追加(21) 担当 頼原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定 可 就任辞退による㉑ 担当 渡邊武(教授) 教員の追加㉑ 担当 岸原健二(教授) 平成19年9月 教員審査済	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
実学系	臨床生理学実習	4	1			3 2	2	1		1	判定可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 隈博幸(講師) 平成19年9月 教員審査済 判定可
	薬物治療学Ⅰ	4	2			1	1			1	教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可
	薬物治療学Ⅱ	4 5		2		1	1			1	教員の追加(22) 担当 縄田陽子(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 教員の追加⑳ 担当 北市清幸(准教授) 平成20年1月 教員審査済 判定可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	医薬品安全性学	3 4		2		1		1			薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	臨床薬物代謝学	3 4		2		1				1	教員の追加(22) 担当 萩森政頼(助教) 平成22年1月 教員審査済 判定可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	疾病学Ⅰ	3 4	2			2 1					教員の追加(21) 担当 穎原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 担当 濱崎直孝(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 就任辞退による⑳ 担当 渡邊武(教授) 担当者の追加⑳ 担当 穎原嗣尚(兼任) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	疾病学Ⅱ	4 5		2		2					教員の追加(21) 担当 穎原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 担当 濱崎直孝(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	臨床検査学	4 5		2		2 1	1	1			教員の追加(21) 担当 穎原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 助手から昇格による担当者の追加⑳ 担当 隈博幸(講師) 平成19年9月 教員審査済 判定可 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し⑲
	医療統計学	3	2								
	調剤学Ⅰ	4	2			1		1			薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による調剤学Ⅰの科目の移動と調剤Ⅰへの名称の変更(21)
調剤学Ⅱ	4		2		1		1			薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による調剤学Ⅱの科目の移動と調剤Ⅱへの名称の変更(21)	
											薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学実務実習	調剤学実習	4	+			+	+	2			学習教育の明確な位置づけを行う再編成による調剤学の実習を組み合わせた調剤Ⅰおよび調剤Ⅱへの発展的統合(21)
	老人・小児の調剤学	6 5		2		1					薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(19)
	医薬品情報論	3 5		2				2			薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(19)
	処方箋解析学	4 5	2			+	+	+			薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による処方箋解析学の科目の移動と処方箋解析への名称の変更(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(19)
	病院薬学	3 4		2		1	1	1			薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(19)
	薬局管理学	4	2			+					健康上の理由による退職(20) 担当 永田修一(教授) 非常勤講師の採用予定(20)
	薬局POS概論	6 5		2		+					健康上の理由による退職(20) 担当 永田修一(教授) 非常勤講師の採用予定(20) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(19)
	調剤Ⅰ	4	3			1	1	1		1	教員の追加(22) 担当 小笠原正良(准教授) 平成21年7月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による調剤学Ⅰの科目名称の変更、移動および教育効果を高めるため調剤学の実習を組み合わせた発展的統合による単位の増加(21)
	調剤Ⅱ	4	3			1	1	1		1	教員の追加(22) 担当 小笠原正良(准教授) 平成21年7月 教員審査済 判定 可 薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による調剤学Ⅱの科目名称の変更、移動および教育効果を高めるため調剤学の実習を組み合わせた発展的統合による単位の増加(21)
	生物薬剤	4	3			2		1		1	薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による薬剤学Ⅱの科目名称の変更、移動および単位の増加(21)
	処方箋解析	4	3			1	1	1		1	薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による処方箋解析学の科目名称の変更、移動および単位の増加(21)
	総合実習	4	1			2	1	2		1	薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による薬学実務実習Ⅰの科目名称の変更、移動および単位の減少(21)
	薬学実務実習Ⅰ	4 5	4			2	1	2			薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行う再編成による薬学実務実習Ⅰの科目の移動と総合実習への名称の変更(21) 健康上の理由による退職(20) 担当 永田修一(教授) 担当者の追加予定(20) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(実務実習調整機構による)(19)
	薬学実務実習病院	5									実務実習の内容の明確な表示による名称変更(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(実務実習調整機構による)(19)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	薬学実務実習Ⅱ	5・6	10			2	1	2			実務実習の内容の明確な表示による名称変更(21) 薬学実務実習が5年次に確定したことによる配当年次の見直し(実務実習調整機構による)⑱
	薬学実務実習薬局 薬学実務実習Ⅲ	5 5・6	10			2	1	2			
	総合演習Ⅰ	4	2			20	8	5			教育体制充実のため担当を追加(22) 〔担当 佐藤博(准教授) 平成22年7月 提出予定 教育体制充実のため担当を追加(22) 〔担当 佐藤博(准教授) 平成22年7月 提出予定 教育体制充実のため担当を追加(22) 〔担当 佐藤博(准教授) 平成22年7月 提出予定 教育体制充実のため担当を追加(22) 〔担当 佐藤博(准教授) 平成22年7月 提出予定 教育体制充実のため担当を追加(22) 〔担当 佐藤博(准教授) 平成22年7月 提出予定
	総合演習Ⅱ	5	2			20	8	5			
	総合演習Ⅲ	6	2			20	8	5			
	卒業研究	5	2			20	8	5			
	卒業研究	6	4			20	8	5			学年・学期毎の総合演習の内容を明確に表現・実施するための科目の分割(21) 准教授から教授への昇格(21) 〔担当 丸茂義輝(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 頼原嗣尚(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 長岡寛明(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 廣田和仁(講師) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 田中啓太郎(講師) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 安河内孝徳(准教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 小川由起子(准教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 小笠原正良(准教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 山口泰史(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 仮屋園博子(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 教員の追加(21) 〔担当 荒川正幸(教授) 平成21年1月 教員審査済 判定可 就任辞退による⑳ 担当 渡邊武(教授) 教員の追加㉑ 〔担当 岸原健二(教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可 担当者の追加㉑ 〔担当 立石正登(教授) 平成20年1月 教員審査済 判定可 教員の追加㉑

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	総合演習(含卒業関連研究)	5~6	12 6			20 14 13	8 5 4	5 3 2 3			担当 田中宏光(准教授) 平成19年9月 教員審査済 判定可 就任辞退による ^⑱ 担当 原口せけまゆみ(講師) 教員の追加 ^⑲ 担当 藤原俊幸(准教授) 平成19年8月 変更書提出予定 ^⑲ 平成19年9月 教員審査済 ^⑳ 判定可 助手から昇格による担当者の追加 ^㉑ 担当 隈博幸(講師) 平成19年9月 教員審査済 判定可 教育効果を考慮し、単位数を変更 ^⑲

- (注) ・認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 ・授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 58	科目 125	科目 0	科目 183	科目 65	科目 131	科目 0	科目 196	認可時からの変更状況の内訳 【必修】 増加 新設0+分割6+必修化2=8科目 減少 削除0+統合1+他学科専門科目移動0=1科目 差引 8-1=7科目 【選択】 増加 新設5+分割15=20科目 減少 削除6+統合0+他学科専門科目移動6+必修化2=14科目 差引 20-14=6科目 【計】 必修増加7+選択増加6=13科目
				[7]	[6]	[]	[13]	

- (注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	社会調査法	4	1	一般	選択	兼任教員のカリキュラム担当の都合上不開講
2	宗教学	2	2	一般	選択	隔年開講につき本年度不開講

(注) ・設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	食文化論	2	1	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより廃止した。
2	検定英語 I	4	1~4	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより廃止した。
3	検定英語 II	4	1~4	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより廃止した。
4	国際交流研究	2	1	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより他学科専門科目へ移行した
5	オランダ研究	2	3	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより廃止した。
6	国際観光論	2	1	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより他学科専門科目へ移行した
7	国際福祉論	2	1	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより他学科専門科目へ移行した
8	国際栄養論	2	1	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより他学科専門科目へ移行した
9	流通論	2	2	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより廃止した。
10	事務管理論	2	3	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより他学科専門科目へ移行した
11	労務管理論	2	2	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより他学科専門科目へ移行した
12	各国経済事情	2	3	一般	選択	全学的な共通科目見直しにより廃止した。
13	調剤学実習	1	4	専門	必修	薬学実務実習コアカリキュラムに従って事前学習教育の明確な位置づけを行い、再編成の結果、調剤学の実習を組み合わせた調剤 I および調剤 II へ発展的に統合した。

(注) ・設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>全学共通科目群について大幅な変更を行った。人間形成に資する共通科目は、その教育課程に幅の広さと深さが求められているとの認識から、現代の社会情勢、学生の気質等を勘案しつつ科目の改廃を行った。その結果、通年科目をすべて学期完結型に科目分割し、新設3科目、廃止6科目、専門科目への区分移行7科目（薬学科への移動1科目「国際薬事論」含む）となった。また、科目区分も3から5区分に細分化するとともに、区分ごとの卒業要件単位を見直し、学生の履修に利便を図ることとした。(19)</p> <p>「調剤学実習」については、薬学実務実習コアカリキュラムに従い事前学習教育の明確な位置づけを行い、再編成の結果、実習を組み合わせた「調剤 I」「調剤 II」へ発展的に統合した。(21)</p> <p>「宗教学」「社会調査法」を今年度不開講とした理由は兼任教諭が所属する他学科の事情による。(22)</p> <p>新カリキュラムについては、4月のオリエンテーションで資料を配布し説明しているため十分周知できている。(19)(20)(21)(22)</p>
--

(注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.08$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考			
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	58,843㎡	0㎡	0㎡	58,843㎡				
	運動場用地	23,801㎡	0㎡	0㎡	23,801㎡				
	小計	82,644㎡	0㎡	0㎡	82,644㎡				
	その他	5,740㎡	0㎡	0㎡	5,740㎡				
	合計	88,384㎡	0㎡	0㎡	88,384㎡				
(2) 校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	32,982.36㎡ (32,982.36㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	32,982.36㎡ 32,982.36㎡					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	23室	24室	36室	2室 (補助職員 1人)	2室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室数			申請学部全体			
	薬学部 薬学科		33 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	追加購入による(22) 追加購入による(21) 追加購入による(20)	
		薬学部	6,563 [1,871] 6,244 [1,859] 5,426 [1,823] 5,000 [1,000] (3,000 [1,000])	148 [89] 145 [84] 123 [64] 100 [40] (100 [40])	67 [64] 66 [65] 24 [23] 20 [20] (20 [20])	349 312 160 (100)	21,392 21,267 20,510 (18,965)		110 (110)
	計	6,563 [1,871] (3,000 [1,000])	148 [89] (100 [40])	67 [64] (20 [20])	349 (100)	21,392 (18,965)	110 (110)		
	(6) 図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数				
		2,614.67㎡	276席		110,000冊				
	(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
2,021.61㎡		テニスコート		グラウンド					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	当該申請学部図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
		教員1人当り研究費等	533千円	533千円	図書購入費	千円	79,500千円	31,000千円	
		共同研究費等	6,000千円	10,000千円	設備購入費	千円	892,274千円	381,726千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	入学金及び実習教育費の改定により平成21年度入学者より適用。平成20年度以前の入学者は従前の納付金(21)	
		2,150千円	1,900千円	1,900千円	1,900千円	1,900千円	1,900千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		積立金等						

- (注) ・ 設置認可時の計画を認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・ 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
 - ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	長崎国際大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 定 員	学位又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
人間社会学部	年	人	年次 人	人		倍		長崎県佐世保市	
国際観光学科	4	200	60	920	学士（観光学）	0.73	平成12	ハウステンボス町	
社会福祉学科	4	100	10	420	学士（社会福祉学）	0.49	平成12	2825番7	
健康管理学部									
健康栄養学科	4	80	10	340	学士（栄養学）	0.82	平成14		
大学の名称	長崎短期大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 定 員	学位又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
食物科	年	人	年次 人	人		倍		長崎県佐世保市	
製菓コース	2		60	—	120	0.80	昭和41	椎木町600	
調理コース	2				短期大学士（調理）				
保育学科						0.95			
保育専攻	2	80	—	160	短期大学士（保育学）		昭和47		
介護福祉専攻	2	20	—	40	短期大学士（福祉）		平成22		保育学科はH22に 専攻分離のため、 定員超過率は 学科として記載 (22)
英語科	2	80	—	160	短期大学士（英語）	0.98	平成元		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）
- ・認可申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
 - ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<薬学部 薬学科>

(1) 担当教員表

(省略)

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時 (17年12月)</p>	<p>1. 「統計学」が選択必修、「医療統計学」が必修という教育課程は、体系的から考えると必ずしも適切であるとは言えないので、学生への履修指導を徹底するとともに、改善すること。</p>	<p>1. 教育課程の体系的を勘案し、「統計学」を必修とした。^⑱</p>	
	<p>2. 大学設置基準第18条第3項を踏まえ、適正な学生の定員管理を行うこと。</p>	<p>2. 平成18年度は入学定員120名に対し入学者数125名。^⑱ 2. 平成19年度の入学者数は101名であった。^⑲ 2. 平成20年度の入学者数は102名であった。^⑳</p>	
	<p>3. 実務実習については、関係機関との連携を図り、着実に実施すること。</p>	<p>3. 薬学部に実務実習運営委員会を立ち上げた。さらに本委員会と長崎県佐世保地区病院薬剤師会および薬剤師会との間で「薬学早期体験学習及び実務実習運営協議会」を立ち上げ、それぞれ病院部会、薬局部会とした。現在は薬学早期体験学習の実施について協議している。実務実習については、月1回の定例協議会を開催し協議していく予定。^⑳</p> <p>3. カリキュラムを改め、薬学実務実習として「事前学習」と「実務実習病院・薬局」に大別し、「事前学習」をモデルコアカリキュラムに準拠した内容で体系的に実施することとし、事前学習の位置づけをより明確なものとした。</p> <p>平成22年度の実務実習の実施に向けて、実務実習調整機構との協力の下で、薬学教育者ワークショップを開催するとともに教員の派遣を行い、70%以上の教員がワークショップ経験者となり、その中からタスクフォースも誕生している。また、実務実習受け入れ病院・薬局との最終調整、学生とのマッチング等を実施しているところである。⁽²¹⁾</p>	<p>3. 平成18年6月から九州・山口薬学実務実習調整機構の正式メンバーになる予定。平成18年5月に3名の教員を薬学教育者ワークショップ（熊本）に派遣予定。^⑳</p>

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
		<p>3. 5年次は、「実務実習・病院」、「実務実習・薬局」、「卒業研究・演習」の3期に分けて実施される。病院および薬局への学生の配属先はすでに決定した。受入先、教員、学生に対して、ハラスメント対策や実施・評価方法に関する説明会を開催し、万全を期している。また、実務実習委員会の傘下に、評価資料や指導書作成のための資料の編集などを行う「評価資料編集部会」を設置し、実務実習の実施体制を強化した。さらに保険の加入や緊急連絡網の設置により、事故や問題等の発生に対する対策も講じている。</p> <p>3. 薬局・病院の指導薬剤師に対する実務実習のスケジュール等に関する事前説明会を開催し、履行した。(22)</p>	
	4. 教員の補充を必要とされた3授業科目については、科目開設時まで教員を充足すること。	<p>4. 「薬剤学Ⅰ」は専任教員の立石教授および神谷助教が平成20年2月教員資格審査済。^⑳</p> <p>4. 「薬剤学Ⅱ」は専任教員の仮屋蘭教授および大磯講師が平成21年1月教員資格審査済。「薬物動態学」は専任教員の仮屋蘭教授および大磯講師が平成21年1月の教員資格審査済(21)</p>	<p>4. 「薬剤学Ⅰ・Ⅱ（3年次配当）」、「薬物動態学（4年次配当）」が担当できる専任教員の採用に努めている。^{⑱⑲}</p> <p>4. 「薬剤学Ⅱ」は配当年次に4年次に変更し学生の履修に影響がないように配慮した。「薬剤学Ⅱ」、「薬物動態学」が担当できる専任教員の採用に努めている。^㉑</p>
設置計画履行状況 調 査 時 (18年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (19年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (20年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (21年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (22年5月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
 - ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<薬学部 薬学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
① 卒業要件単位数 全学共通科目36単位 専門科目150単位	① 全学的な共通科目の見直しを受け、かつ、学生の専門性をより高めるため、卒業要件単位数の見直しを行った。 全学共通科目30単位 専門科目156単位 個別具体として、総合演習6→12単位

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>(1) 全学教授会の下に設置されている各種委員会に薬学部委員を任命し、委員会運営に携わっている。</p> <p>(2) 薬学部薬学科会議の下に下記の各種委員会を設置している。</p> <p>教務委員会、学生委員会、入試・募集委員会、就職委員会、CAI運用委員会、CBT・国家試験対策委員会、OSCE実施委員会、CBT実施委員会、CBT再試験対策委員会、実習(学内)委員会、実務実習運営委員会、研究等倫理委員会、安全管理委員会、自己点検評価委員会、FD委員会、薬学教育第三者評価実施・検討委員会、共同機器管理委員会、図書選定委員会、薬用植物園運営委員会、薬学研究センター運営委員会、模擬試験問題作成精選委員会</p> <p>FDに関しては、長崎国際大学自己点検・評価委員会(委員長:学長)の小委員会として教育向上研究会を組織し、全学的に取り組むとともに、各種委員会と連携しながら、教員の資質の維持向上に努めている。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>(1) 全学的取り組み(教育向上研究会)開催状況</p> <p>本学部設置後の開催状況は以下のとおり</p> <table border="0"> <tr> <td>平成18年10月</td> <td>第12回「改革期における大学教育職員のあり方」～第三者評価に堪えうる大学づくり～</td> <td>財団法人日本高等教育評価機構研究開発部部長 高山裕司 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成19年3月</td> <td>第13回「ユニバーサル段階の大学における初年次教育の現状と課題」</td> <td>社会福祉学科初年次教育研究会 石倉健二ほか (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成19年5月</td> <td>第14回「卒業生アンケート調査結果報告」</td> <td>国際観光学科 青山有三 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成20年2月</td> <td>第15回「薬学部早期体験学習の教育効果について」</td> <td>～薬学生の学習モチベーション向上および医療人の心構えの修得を狙って～</td> </tr> <tr> <td>平成20年5月</td> <td>第16回「大学院教育向上に向けて」</td> <td>薬学部薬学科 立石正登 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成20年11月</td> <td>第17回「ユニバーサル段階の大学における初年次教育の現状と課題 その2」</td> <td>学校法人九州文化学園 教育改革推進室 室長 山中秀光 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成21年2月</td> <td>第18回「学生支援体制の充実に向けて」</td> <td>社会福祉学科初年次教育研究会 原田奈津子他2名 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成21年6月</td> <td>第19回「学生相談における今日の問題への理解と対応」</td> <td>人間社会学部社会福祉学科 黒山竜太 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成21年10月</td> <td>第20回「少子化時代の大学」</td> <td>九州工業大学保健センター 准教授 菊池悌一郎 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成22年1月</td> <td>第21回「双方向授業への誘い」</td> <td>公立大学法人熊本県立大学理事長 蓑茂寿太郎 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成22年1月</td> <td>第22回「現在の採用戦線報告及び厳しい環境下での就職指導ポイント」</td> <td>株式会社毎日コミュニケーションズ 西日本キャリアサポート統括 大阪支社 企画広報部 土山勇 (参加者:全学教員)</td> </tr> <tr> <td>平成22年1月</td> <td>第23回「立命館大学共通教育推進機構 教授 木野茂</td> <td>(参加者:全学教員)</td> </tr> </table> <p>(2) 学科の取り組みの開催状況</p> <p>随時開催し、直近の学科会議に議案を提出する。定例学科会議は、毎月第3水曜日15:30～開催している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>教務委員会 (15名) 全学教務委員会に準じ、薬学科の教務に関する事項を審議する。</p>		平成18年10月	第12回「改革期における大学教育職員のあり方」～第三者評価に堪えうる大学づくり～	財団法人日本高等教育評価機構研究開発部部長 高山裕司 (参加者:全学教員)	平成19年3月	第13回「ユニバーサル段階の大学における初年次教育の現状と課題」	社会福祉学科初年次教育研究会 石倉健二ほか (参加者:全学教員)	平成19年5月	第14回「卒業生アンケート調査結果報告」	国際観光学科 青山有三 (参加者:全学教員)	平成20年2月	第15回「薬学部早期体験学習の教育効果について」	～薬学生の学習モチベーション向上および医療人の心構えの修得を狙って～	平成20年5月	第16回「大学院教育向上に向けて」	薬学部薬学科 立石正登 (参加者:全学教員)	平成20年11月	第17回「ユニバーサル段階の大学における初年次教育の現状と課題 その2」	学校法人九州文化学園 教育改革推進室 室長 山中秀光 (参加者:全学教員)	平成21年2月	第18回「学生支援体制の充実に向けて」	社会福祉学科初年次教育研究会 原田奈津子他2名 (参加者:全学教員)	平成21年6月	第19回「学生相談における今日の問題への理解と対応」	人間社会学部社会福祉学科 黒山竜太 (参加者:全学教員)	平成21年10月	第20回「少子化時代の大学」	九州工業大学保健センター 准教授 菊池悌一郎 (参加者:全学教員)	平成22年1月	第21回「双方向授業への誘い」	公立大学法人熊本県立大学理事長 蓑茂寿太郎 (参加者:全学教員)	平成22年1月	第22回「現在の採用戦線報告及び厳しい環境下での就職指導ポイント」	株式会社毎日コミュニケーションズ 西日本キャリアサポート統括 大阪支社 企画広報部 土山勇 (参加者:全学教員)	平成22年1月	第23回「立命館大学共通教育推進機構 教授 木野茂	(参加者:全学教員)
平成18年10月	第12回「改革期における大学教育職員のあり方」～第三者評価に堪えうる大学づくり～	財団法人日本高等教育評価機構研究開発部部長 高山裕司 (参加者:全学教員)																																			
平成19年3月	第13回「ユニバーサル段階の大学における初年次教育の現状と課題」	社会福祉学科初年次教育研究会 石倉健二ほか (参加者:全学教員)																																			
平成19年5月	第14回「卒業生アンケート調査結果報告」	国際観光学科 青山有三 (参加者:全学教員)																																			
平成20年2月	第15回「薬学部早期体験学習の教育効果について」	～薬学生の学習モチベーション向上および医療人の心構えの修得を狙って～																																			
平成20年5月	第16回「大学院教育向上に向けて」	薬学部薬学科 立石正登 (参加者:全学教員)																																			
平成20年11月	第17回「ユニバーサル段階の大学における初年次教育の現状と課題 その2」	学校法人九州文化学園 教育改革推進室 室長 山中秀光 (参加者:全学教員)																																			
平成21年2月	第18回「学生支援体制の充実に向けて」	社会福祉学科初年次教育研究会 原田奈津子他2名 (参加者:全学教員)																																			
平成21年6月	第19回「学生相談における今日の問題への理解と対応」	人間社会学部社会福祉学科 黒山竜太 (参加者:全学教員)																																			
平成21年10月	第20回「少子化時代の大学」	九州工業大学保健センター 准教授 菊池悌一郎 (参加者:全学教員)																																			
平成22年1月	第21回「双方向授業への誘い」	公立大学法人熊本県立大学理事長 蓑茂寿太郎 (参加者:全学教員)																																			
平成22年1月	第22回「現在の採用戦線報告及び厳しい環境下での就職指導ポイント」	株式会社毎日コミュニケーションズ 西日本キャリアサポート統括 大阪支社 企画広報部 土山勇 (参加者:全学教員)																																			
平成22年1月	第23回「立命館大学共通教育推進機構 教授 木野茂	(参加者:全学教員)																																			

学生委員会（8名） 入試・募集委員会（7名） 就職委員会（5名） CAI運用委員会（10名） CBT・国家試験対策委員会（10名）	全学学生委員会に準じ、薬学科の学生に関する事項を審議する。 全学入試・募集委員会に準じ、薬学部の入試・募集に関する事項を審議する。 全学教務委員会に準じ、薬学科の就職に関する事項を審議する。 CAIの運用・管理に関する事項を審議する。 10回開催（うち8回はメール会議）した。内容は、薬剤師国家試験の分析、受験指導、模擬試験実施、等国家試験受験指導全般に関する事項を審議する。 共用試験のOSCEを円滑に行える体制整備と試験実施に関する事項を審議する。 7回実施。内容はCBT試験システム及び実施要領の確認など試験実施における体制整備と実施に関する事項を審議する。
OSCE実施委員会（5名） CBT実施委員会（4名）	共用試験のCBT再試験の受験指導全般に関する事項を審議する。 薬学部で実施される学生実習全般に関する事項を審議する。
CBT再試験対策委員会（17名） 実習（学内）委員会（14名） 実務実習運営委員会（6名）	早期体験学習、薬学実務実習（事前学習、実務実習）の体制整備と実施に関する事項を審議する。
研究等倫理委員会（7名）	3回開催。内容は、ヒトを対象とする研究、動物実験、遺伝子組換え実験の審査等に関する事項を審議する。
安全管理委員会（4名） 自己点検評価委員会（5名） FD委員会（8名） 薬学教育第三者評価実施・検討委員会（9名）	薬学部の施設、教育、実験、研究における安全管理等に関する事項を審議する。 全学自己点検評価委員会に準じ、薬学部の自己点検評価に関する事項を審議する。 薬学部のFDに関する事項を審議する。 薬学教育第三者評価の実施、特に評価21の実施に関する事項を審議する（4回開催）。
共同機器管理委員会（5名）	2回開催（いずれもメール会議）。内容は薬学部共通使用機器等の管理運営に関する事項を審議する。参加人数は7人。
図書選定委員会（23名）	薬学部教育に係わる図書の選定に関する事項を審議する。会議は開いてはいないが、メールにて各研究室の図書選定員に7月と12月の2回の図書選定の依頼を行っている。
薬用植物園運営委員会（5名） 薬学研究センター運営委員会（6名） 模擬試験問題作成精選委員会（14名）	薬用植物園の運営・管理に関する事項を審議する。現在の所、開催実績は無い。 研究員の受け入れ等に関する事項を審議する（6回開催）。 薬学教育協議会問題部会の内容の整理分析ならびに試験前・後開設授業計画書を作成する。模擬試験、実力試験等の問題作成および精選に関する事項を協議する。

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

・授業方法についての検討及び研究会

下記の様に、薬学部における関連委員会で検討の上、学科会議で審議承認され実施する。

- ①導入教育(教養セミナー)の授業方法についての検証と改善---教務委員会・FD委員会
- ②リメディアル教育(特に化学)についての検討---教務委員会・FD委員会
- ③早期体験学習のあり方検討会---実務実習運営委員会
- ④試験及び試験解説授業の導入等に関する検討---教務委員会
- ⑤学生の理解度深化のための補習授業の開催に関する検討---教務委員会
- ⑥実力試験の導入等に関する検討---教務委員会
- ⑦実務実習の教育充実のための検討---実務実習運営委員会
- ⑧シラバスのあり方に関する検討---教務委員会・FD委員会
- ⑨新任教員に対する研修に関する検討---FD委員会
- ⑩双方向型授業の導入促進に関する検討---教務委員会・FD委員会

・授業評価アンケート

- ①全学自己点検評価委員会が実施する学生による授業評価のアンケートを実施している。
- ②薬学部各教員が必要に応じ随時個別に担当教科の授業評価アンケートを実施している。
- ③各教員は、①②を点検・評価し、授業の改善・充実に努めている。

・教員相互の授業参観（FD委員会）

平成22年度より、FD委員会による実施体制のもとに、授業改善の目的で、授業公開と教員相互による授業参観を実施する。授業参観を通して教員間で意見交換を行い、各教員の授業改善に努める。

・教員・学生・地域薬剤師の資質向上についての研究会

- ①新薬研究会の開催
- ②輸液研究会の開催
- ③SP（模擬患者）養成講座の開催
- ④薬剤師教育協力者養成講座

・新任教員のための研修会

平成21年度4月に実施した。

b 実施方法

全学的取組は全学の専任教員を対象として実施する。
薬学科の取組は学科の専任教員を対象として実施する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

全学的取組は全学教授会終了後に実施するため、すべての教授会構成員が参加する。
薬学科の取組は、取組に応じて分担しているが、テーマによっては全教員の参加をお願いしている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員個人毎の授業改善に反映すると共に、関係委員会においても取り上げ、組織的な教育改善に取り組んでいる。とくに「学生による授業評価のアンケートに対する自己点検・評価報告書」を作成し、毎年、授業改善の努力目標を明確にしている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

（別紙のとおり）

② 自己点検・評価報告書

(1) 大学全体の自己点検・評価報告書

- a 公表時期
 - ・平成22年3月24日 公表
- b 公表方法
 - ・自己点検・評価報告書を刊行し、希望者に原則として各1冊を配布
 - ・大学ホームページ上に公開

(2) 薬学部の「自己評価21」

- a 公表時期
 - ・平成22年4月10日 公表
- b 公表方法
 - ・「自己評価21」の冊子を各薬学部教員に配布した。
 - ・大学ホームページ上にPDF形式で公開している。

③ 認証評価を受ける計画

(1) 大学全体の認証評価

- ・認証評価機関「日本高等教育評価機構」による評価を平成19年度に受け、管理運営及び財務の基準において保留判定。
- ・平成21年度に両基準について再評価を受け認定。
- ・次回は、平成26年度に認証評価機関「日本高等教育評価機構」の評価を受ける予定。

(2) 薬学部の教育評価

- ・一般社団法人 薬学教育評価機構による評価を受ける予定である。（平成24年度以降）。

(注) ・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (2010年8月1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www1.niu.ac.jp/about/disclosure.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

＜薬学部薬学科（平成18年度設置）＞

(1) 設置の趣旨・目的

長崎国際大学は設置母体の九州文化学園の建学の精神に基づき、「“いつも人から、そして心から”をモットーに、人間尊重、平和の推進、自己の確立を礎とし、高度な学問と実学を通して、ホスピタリティを学び、よって品格と情操を陶冶し、人間形成に資する。」ことを教育理念とし、大学開設以来、すべての構成員の理解と協力のもと、着実な発展を遂げてきた。

「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」において提言された新しい構想の薬学（部）教育への期待は、長崎国際大学の教育理念と一致するものである。即ち、新しく設置した薬学部は、既設の人間社会学部・健康管理学部と同様に、人間尊重を基本理念に、薬学教育を「モノ」を中心とした学問から、「ヒト」を中心とした学問へ軸足を移した薬学教育を展開することをねらいとしている。

このねらいを基に、医療に貢献できる能力と倫理観、個々の患者に対応したコミュニケーション能力をもった豊かな人間性、国際的に活躍できる能力、研究心と創造性、生涯にわたり学び続ける意志と能力を身につけた実践的薬剤師を育成する教育・研究を行うことが、本学部の設置の趣旨・目的である。

すなわち、社会の期待と要請に応え、地域社会に貢献し、そして圏域受験生の要望に応えることが目的である。

(2) 達成状況

開学後5年目を迎え、現在最高学年が5年次生となった。1年次の教養教育を中心とした全学共通科目、専門基礎科目、早期体験学習、さらに、2・3年次の薬学専門科目及び科目以外の企画（付設の長崎リハビリ病院における臨床体験学習）等における学修を通して、設置の趣旨に掲げた「“モノ”を中心とした学問から“ヒト”を中心とした学問へと軸足を移した薬学教育の展開」については、途中経過であるが達成されつつあると考えられる。

また、1年次におけるリメディアル教育を強化するとともに、4年次までの教育成果を点検し、設置の趣旨・目的をより達成できるカリキュラムへの修正等を随時検討し実施しているところである。5年次は、1年間を3期に分け、「実務実習・病院」と「実務実習・薬局」と「卒業研究・演習」を実施する。実務実習の準備状況は万全であり、問題ない。

(3) 総括評価・所見

設置の趣旨・目的を踏まえた教育を心掛けているところである。長崎国際大学薬学部は、薬剤師養成課程が6年制に移行すると同時に設置した学部であるため、社会からの注目度は高く、特に一期生への期待は大きいといえる。よって、社会が求める薬剤師を養成することを念頭に置き教育を実施すると共に、地域において患者から信頼される薬剤師・医療スタッフ像をイメージさせながら、実務実習をはじめとした現場研修を重視し、薬学専門教育並びに実務家育成教育に重点をおいているところであり、一定の成果は得られたと評価している。

一方では、この数年間で6年制薬学部の新設が相次ぎ、受験生の確保が難しい状況になってきたことから、受験生の質の確保に問題が生じ、設置の趣旨・目的にかなう教育内容を一定のレベルで教授することに対する工夫が求められる状況になってきたといわざるを得ない。そのために、初年度教育の充実、日常的な補習授業の実施など具体策を検討、実施するつもりであり、すでに実施しているものもある。